



2002年7月25日 第2002-61号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : [syakai@jam-union.or.jp](mailto:syakai@jam-union.or.jp)

参院・厚生労働委員会

# 健保法、与党強行採決の暴挙

7月25日、参議院・厚生労働委員会で、与党は健保法等改正法案について、強行採決を行いました。

25日午前10時より審議が始まり、野党委員は、高齢者医療制度や診療報酬のあり方など抜本改革に向けた、前向きな質疑を行いました。さらに、この改正法案はあまりにも問題が広く・深いため十分な審議が必要であり、強行採決などあってはならないと強調しました。

しかし午後の審議に入り、自民党委員が質疑を早めに切り上げるやいなや、厚生労働委員会・阿部委員長は採決に踏み切り、14時43分強行採決されました。

明日26日は、参議院本会議が開催されますが、本会議での採決を阻止すべく、野党4党は阿部委員長解任決議案の提出など今後の対策を協議中です。

どしゃぶりの中、

1000人が国会前座り込み

25日午前9時30分より、連合は国会前座り込み行動を行いました。この行動には、JAM本部・JAM東京が参加し、本部・市川社会政策局長が決意表明を行いました。また連合は、この強行採決に抗議する事務局長談話を発表しました。

「健保法等改正法案の

委員会強行採決に抗議する談話」要旨

本日、政府・与党は、参議院厚生労働委員会において、健康保険法等の一部改正法案を、民主党など野党の反対を押し切って強行採決した。衆議院と同様、医療制度の抜本改革実施を明らかにせず、患者・国民の大幅負担増を、国民の反対を押し切って採決した政府・与党の暴挙に、連合は満身の怒りをもって抗議する。

連合は、国民が安心と信頼をもてる医療制度とするためには、患者の立場にたった医療供給体制、診療報酬制度、老人医療制度の抜本改革をすべきことを訴え、この春「1000万人署名」活動を行い、790万人の勤労国民の賛同を集めた。そしてこの署名簿を衆参両議長に提出してきた。

参議院の審議では、この法改正により1兆5000億円以上の新たな負担を国民に課することが明らかになった。このため与党委員の一部、また与党推薦の参考人からは、「修正がなければ断固反対」の意見表明がなされた。しかし、政府・与党はこれら国民大多数の反対の声を全く無視し、患者・国民に大幅な負担増を押しつける法案の強行成立をめざしている。

改革の内容を示さず、負担増のみを患者・国民に課す今回の健保法等改正は、医療制度を危くするものである。さらに、問題解決を求める野党、国民の声を圧殺する与党の採決は、民主主義の否定であり、採決を撤回すべきである。

参議院本会議は、今回の委員会採決を認めることなく、審議の再開を行わなければならない。

連合は、改革内容が示されない健保法等改正法案は廃案とし、改めて政府が真の医療制度の改革法案を提出するよう要求する。